
幼い恋

蒼月 かなた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼い恋

【コード】

N9903T

【作者名】

蒼月 かなた

【あらすじ】

13才にしか見えない25才のティーシャレンファン。ある時アースレイドと言う15才の少年が告白してきて……………。

ティーシャレンファンは魔術師だ。それも力ある高位の。しかし、天は二物を与えたりはしなかった。彼女は今年25才になるうというのに、未だに13才位にしか見えなかったのである。

子供の頃は大きくなったら美人になるねーと言われて育った。月の色を思わせるプラチナブロンドにスミレ色の瞳、零れ落ちそうな目に桜色の唇、薔薇色の頬とくれば誰もが羨む組み合わせだった。ちやほやされて育てられた割には素直で屈託なく育ったと思う。

しかし、異常はすぐにあらわれた。ティーシャレンファンは成長するのがとても遅かったのだ。そして13才の春。彼女の成長は永遠に止まった。胸は微かに膨らんだ程度。救いは月の障りがある事だがこんな25才誰も相手にしない。そういう意味で近寄って来るのは年を召された変態そうなオジサマだ。

年頃になれば恋もした。でも相手にされないのが分かっていたから友人のままにいる事が多かった。頑張って告白した事もあったが、相手にとっても困った顔をされる事が常だった。『ごめんねティーシャ。君の事そういう風に見れない』それが相手の決まり文句。そりゃそうだ。子供にしか見えない自分と恋人のように歩いたら騎士団に通報されてしまう。変質者として。

だからティーシャレンファンは自分は結婚できないんだろうなあと思っていた。

「ティーシャレンファン僕と結婚を前提にお付き合いして下さい」

そうやってきたのは15才の少年で公爵家の三男坊。蜂蜜色の髪に少しきつめの青い瞳。将来はきつとお嬢様がたに騒がれるであろうその容姿。お互いの年齢差を考えなければかなりの優良物件だ。

「……………ごめんなさい。わたし25才なの。……………流石に年齢が離れすぎてるわ」

信じて貰えないかもしれないけどと、見た目13才のティーシャレンファンは勇気を振り絞って言ってみた。

「知っています。失礼だと思ったのですが少し調べたので……………あなたは覚えてらっしゃらないでしょうが、僕は以前あなたが道端で倒れていた流行り病に伏した老婆に治癒の術をかけてらっしゃったあの場にいたのです。一目ぼれでした」

キラキラとした瞳で訴えられればその純粋な気持ちに胸が痛くなっただ。けれど。

「アースレイド様、では私は13才の年から成長していない……………それも御存じでしょう？」

「はい」

「アースレイド様は今15才とお聞きしました。今は良いでしょうですが、あなたが大きくなられて……………例えば今の私のご年齢になったとして……………果たして13才に見える妻を望まれるでしょうか？」

15才の自分の感覚と、25才になった時の感覚は違うと思いますというアースレイドは哀しげに目を伏せた。

「子供の私の言葉では信用できないのですね。では僕はあなたの信頼を勝ち取れるようにします」

そういうとアースレイドは怒ったように踵を返して行ってしまった。ティーシャレンファンは少し寂しい気持ちになったもののアースレイドの為には良かったのだとそう思った。過去にもこう言った幼い告白をされた事のある身としてはなおさらだった。彼らは成長すると一様にティーシャレンファンへの熱を忘れた。淡い初恋の思い出にかわるのだ。

あれからアースレイドはやってこない。きつと諦めたのだろうとティーシャレンファンは思った。

何年か経ち、風の噂でアースレイドが騎士団に入った事を知った。年月は雄弁に彼を一人の男として成長させたようだ。王太子殿下と人気を二分する美青年に成長したらしい。風は時々アースレイドの噂を運んできた。馬上試合で優勝したとか、末の王女ユリアナ姫が御執心らしいとか。ティーシャレンファンはそれらを微笑ましく聞いていた。最後に少年が見せた意志の強い青い瞳を思い出しながら。

また何年か立った頃、風の噂でアースレイドが天馬騎士団の団長に抜擢されたと聞いた。若いながら有能でユリアナとの婚約も近いのではないかと風は運んできた。そんな秋の頃だった。35才になったティーシャレンファンが庭の手入れをしていた時にその声はした。

「良く手入れされた綺麗な庭ですね」

掛った声は低く、甘く囁くようにその場に響いた。

顔をあげれば記憶の中にある青。背はもちろん伸びた。がっしりとした体躯にはあの時の少年の面影はない。髪の色は濃くなり、ただ、

その瞳だけがいつまでも変わらぬ熱を孕む。

「約束を果たしに来ました」

驚くティーシャレンファンの前にあの時の再現のようにアースレイドが立つ。

「……………ティーシャレンファン。僕と結婚を前提にお付き合いして下さい」

それは、あの時と同じ言葉で……………。

「僕はもう25です。あの時のあなたと同じ年になった。気持ちは変わりません。いや、この年になるまで会わぬと誓った分だけ想いは深くなった」

少し緊張した面持ちでアースレイドが言う。

「でも……………ユリアナ姫と婚約間近と聞きました……………」

「あれはっ!!!違います。そもそもユリアナ姫は来年、東国のザイオンに嫁ぐ事が決まっています。僕が好きなのは……………いや、愛しているのは15の時からあなただけです」

きっぱりと言い切られればティーシャレンファンの頬に朱が昇った。自分でも信じられないくらいに頬が熱い。

「それでも、僕は信じてもらえないだろうか？」

ティーシャレンファンの為だけに捧げた10年。その重さ、その輝

きにティーシャレンファンの心臓がトクトクと早鐘を打つ。

「……………いいえ……………その、正直驚いてしまって……………」

「すぐに結婚してくれとは言いません。ただ結婚を前提に……………僕をあなたの傍に居させて下さい」

後はただもう頷くしかなかった。

嬉しそうに微笑むアースレイドはティーシャレンファンを抱きしめそつと口付を落とした。

(後書き)

甘酸っぱいのが書きたくなくなってこうなりました。
私は年の差とかが好きみたいです。

今回はティーシャレンファンの方が年上ですが。

この後二人は結婚して子供にも恵まれ幸せに暮らします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9903t/>

幼い恋

2011年6月27日10時07分発行